

SUPER
FORMULA

STAGE

superformula.net

INDEX

- 2017 出場ドライバー紹介 ②③
- 今大会の見どころ ②
- 本山 哲アンバサダーが語るコースガイド ③
- リア流 SUPER FORMULA 調理法 ④
- インフォメーション ④

Published JAPAN RACE PROMOTION
2-3-25 Kudan-minami Chiyoda-ku Tokyo

本紙への広告掲載のお問い合わせは——
株式会社 日本レースプロモーション
〒102-0074 東京都千代田区九段南2-3-25
☎03-3237-0131
http://superformula.net

JRP
Japan Race Promotion Inc.

INTERVIEW NO.7

VANTELIN TEAM TOM'S ドライバー

アンドレ ロットラー

Andre LOTTERER #36

「僕はレーサーなんだ。だから速いクルマでレースすることを望んでいるし、できるだけたくさん勝ちたい。“何でF1に乗っているの？”っていう質問をフェルナンド・アロンソにしてもらえよ。彼だって同じように答えるだろう。F1から金や名声といったすべてのことを取り払って、周りに誰もいないサーキットにクルマを持って行ってレースをしたとしても、レーサーだったら“乗りたい”って言うと思う。僕にとってスーパーフォーミュラはそれと同じものだ。これだけ速いクルマに乗ってレースをする。それを“やりたい！”と思うのは、レーシングドライバーとしての本能であって、僕はこのクルマに乗り続けられることを誇りに思っているよ」

今年の11月、36歳になるアンドレ・ロットラーは、スーパーフォーミュラに参戦するドライバーの中で上から数えて2番目の年齢だ。彼がこのシリーズに参戦を開始したのは2003年のこと。当時はまだフォーミュラ・ニッポンと呼ばれていた時期で、彼は弱冠21歳。彼にとって、今年が参戦開始から実に15年目のシーズンとなった。

初来日したのは、シーズン開幕を間近に控えた時期のこと。NAKAJIMA RACINGのドライバーオーディションのためだった。実は、彼が来日する以前、NAKAJIMA RACINGは一旦イギリスF3チャンピオンを獲得したロビー・カーを起用することを決めていた。だが、カーのマネジメントやスポンサーは、ヨーロッパから遠く離れた日本の選手権への出場に反対し、断りを入れてきたのだ。そのため、急遽行われることになった再オーディションにロットラー、ロマン・デュマ、セバスチャン・フィリップの3人が招聘された。

ここで最も速かったのがロットラー。そして彼

は日本でシートを掴むことになった。彼を日本に紹介したのは、かつて星野一義と全日本F3000のタイトルを争ったエディー・アーバイン。アーバインがジャガーF1チームの正ドライバーだった時期、ロットラーはテストドライバーを務めていた。その縁で日本にやってくることになったのだ。「最初にオーディションのために来日するという話になった時、仲立ちしてくれた人が、“選ばれた時のことを考えて、念のために2カ月分ぐらいは荷物を持ってきた方がいいよ”って言ったから、僕は半信半疑でものごとく大きな荷物を持ってきたんだ。そして結果として僕はシートを得て、そこから半年ヨーロッパに帰ることはなくずっと日本にいたんだよ」と笑うロットラー。

彼は初来日してすぐにチームのお膝元である御殿場で新たな生活をスタートすることになった。毎日のように、町の中に何かがあるのか、チームはどのようなところなのか、新しい発見が続いていたという。全く知らない場所、全く知らない文化だっただけに、以前生活の拠点にしていたイギリスやスイスより、彼にとっては“冒険”というのがふさわしいエキサイティングな日々だった。そして、彼はフォーミュラだけでなく、スーパーGTにも乗りたいとチームに懇願する。

「ヨーロッパにいる時から、グランツーリスモで遊んでいて、その中に出てくるクルマは全部知っていた。NAKAJIMA RACINGのガレージに行ったら、そのゲームの中に出てくるNSXがあったんだよ。とてもクオリティーが高い素晴らしいクルマで、見た途端、“これに乗りたい！”って思った。僕は、それまで日本に来たことはなかったけど、なぜか意識していなくても、日本のレースに関する情報が自分の中にあっただ」

フォーミュラ・ニッポンとスーパーGT。日本を代表するこの2つのカテゴリーに参戦を続けることで、ドライバーとしてのロットラーはスキルを磨き上げていった。当時、激しく火花を散らして戦ったブノワ・トレルイエやロイック・デュバルを含め、日本で走るヨーロッパのドライバーたちは、母国のメディアから“レース難民”という不名誉な呼び方をされており、次第に人々の記憶からも薄れていった。だが、彼らはいわゆる“本場”の人たちが目を向けられない静かな場所で鋭く爪を研いでいたのだ。

「日本のシリーズに参戦を続けている間に、毎年毎年条件は良くなっていった。TOM'Sに移って、僕は日本でのファミリーを見つけることもできたよ。だけど、いつかヨーロッパに戻らなければな

らないんだって。アウディに入るのがベストだ”って思っていた。アウディは、一度抱えたドライバーの面倒を長く見ていたし、ル・マンでの活動を見ても、とても安定していたからね」

その希望が叶ったのが2010年。ロットラーは2009年、アウディR10を走らせたチーム・コレスからル・マン24時間レースを走り、プライベートとしては最高に近い成績を挙げたことで、アウディのワークス入り成功する。そして2011年にはル・マンで初優勝。翌2012年にWEC・世界耐久選手権がスタートしたことで、一度は日本から離れようかと考えた。だが、彼の心はそれをよしとしなかった。

「一度はシートを譲ろうかと思ったけど、1カ月ぐらいモヤモヤして、“やっぱりそれは違う”って思ったんだ。僕はアウディ入りしたけど、日本のレースも続けたいって。だって、僕の青春の全ては日本にあったし、ドライバーとしてフォーミュラカーに乗り続けたかったから。今でもシリーズの中で2番目に年長なんて気持ちはないし、できる限り乗り続けたいんだ。本山（哲）選手が持っている最多勝の記録を塗り替えるまでね（笑）」

※インタビュー全編は後日公式ホームページに掲載いたします。

Series Partner **HONDA TOYOTA**

Series Supporter **YOKOHAMA**

Promotion Partner **HITACHI**
Inspire the Next
日立オートモティブシステムズ

SONY
Action Cam

八 NINKI-ICHI
人気酒造

Broadcasting Partner **BSフジ**

J SPORTS

KCMG

ケーシーエムジー

18 小林可夢偉
Kamui KOBAYASHI
1986年9月13日 / 兵庫県 日本



KCMG Elyse SF14

RANKING **7** POINTS **16.5**

F1で活躍し、2015年にスーパーフォーミュラへ。2年間チームルマンで活躍してきたが、今年チームを移籍。第4戦では優勝目前の2位表彰台を獲得。

<http://www.kamui-kobayashi.com/>



ITOCHU ENEX TEAM IMPUL

イトウチュウエネクス チーム インパル

19 関口雄飛
Yuhi SEKIGUCHI
1987年12月29日 / 東京都 日本



ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF14

RANKING **4** POINTS **25**

長年GTレースで活躍。昨年はスーパーフォーミュラ初参戦で、2勝する活躍を見せた。今季は第6戦で優勝し、タイトル争いで差を詰めてきた。

<http://yui-muteki.net/>



20 ヤン・マーデンボロー ★
Jann MARDENBOROUGH
1991年9月9日 / イギリス 英国



ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF14

RANKING **14** POINTS **3.5**

昨年全日本F3で2位となり、今年スーパーフォーミュラへ。まだ表彰台獲得こそないが、3度の入賞。最終戦で表彰台を獲得するような飛躍ができるか。

<https://www.jannthaman.com/>



VANTELIN TEAM TOM'S

バンテリン チーム トムス

36 アンドレ・ロッテラー
Andre LOTTERER
1981年11月19日 / ドイツ 德国



VANTELIN KOWA TOM'S SF14

RANKING **6** POINTS **20**

2011年チャンピオン。11、12、14年とル・マン24時間レースで優勝している。毎年タイトルを争うが、今年は第5、6戦の無得点で王座は敵しくなった。

https://twitter.com/andre_lotterer?lang=ja



37 中嶋一貴
Kazuki NAKAJIMA
1985年1月11日 / 愛知県 日本



VANTELIN KOWA TOM'S SF14

RANKING **5** POINTS **22**

元F1ドライバーで、2012、14年のチャンピオン。父はナカジマレーシングの中嶋信隆監督。今季は開幕戦でポール・トゥ・ウィンを飾っている。

<http://www.kazuki-nakajima.com/>



DOCOMO TEAM DANDELION RACING

ドコモチームダンディライアンレーシング

40 野尻智紀
Tomoki NOJIRI
1989年9月15日 / 茨城県 日本



DOCOMO DANDELION M40S SF14

RANKING **17** POINTS **2**

デビューした2014年にいきなり優勝し、俄然注目される存在に。今季は入賞こそ1回しかないが、第5戦で自身2度目のポールポジションを獲得した。

https://twitter.com/tomoki_nojiri



41 伊沢拓也
Takuya IZAWA
1984年6月1日 / 東京都 日本



DOCOMO DANDELION M41Y SF14

RANKING **13** POINTS **5**

2008年にフォーミュラ・ニッポンへ。12年にはタイトルを争った。その後GP2に参戦し、15年に復帰。今季は開幕戦と第3戦、第6戦で入賞している。

<http://www.takuya-izawa.com/>



B-Max Racing team

ビー・マックスレーシングチーム

50 小暮卓史
Takashi KOGURE
1980年8月1日 / 群馬県 日本



B-Max Racing team SF14

RANKING **-** POINTS **0**

2003年からフォーミュラ・ニッポンを戦い、ロッテラー選手とともに今年で15年目のベテラン。チームは今年初参戦。熟練の技でどこまで活躍できるか。

<http://www.takashi-kogure.com/>



TCS NAKAJIMA RACING

ティーシーエス・ナカジマレーシング

64 中嶋大祐
Daisuke NAKAJIMA
1989年1月29日 / 愛知県 日本

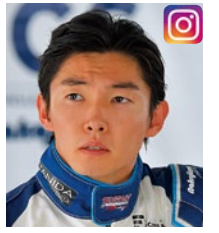


TCS NAKAJIMA RACING SF14

RANKING **16** POINTS **2**

父はチームの中嶋信隆監督、兄の一貴も選手として活躍中。開幕戦で入賞後は苦戦が続くが、昨年も後半に活躍を見せており、最終戦での巻き返しに期待だ。

<http://www.daisuke-nakajima.com/>



65 ナレイン・カーティケヤン
Narain KARTHIKEYAN
1977年1月14日 / インド 印度



TCS NAKAJIMA RACING SF14

RANKING **-** POINTS **0**

2001年にフォーミュラ・ニッポンに参戦。その後05、11、12年とF1で戦い、14年から再び日本で活動。今季チームを移籍し、新天地での入賞が待たれる。

<https://twitter.com/narainracing?lang=ja>



本山 哲 アンバサダーが語る 鈴鹿サーキット

・秋の鈴鹿は全体的にスピードアップ

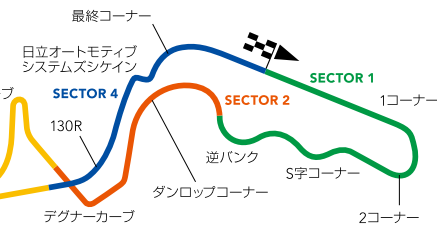
4月に開幕した今シーズンのスーパーフォーミュラも、いよいよ今回の鈴鹿が最終戦となります。僕自身、前回のSUGO戦の後に現行のSF14をテストさせてもらったので、今まで以上に詳しい情報を皆さんにお伝えすることができるといいますし、放送も楽しみにしていますのでね。

さて、そのSF14は素直で乗りやすかったです。以前、僕が乗っていたクルマよりもダウンフォースが増えていて、ミドルスピード以上のコーナーでのグリップの高さが印象的でした。特にハイスピードコーナーは速くてGは予想以上。首を支えることができなくなるぐらい(笑)。でも、すべてのクオリティーが高く、乗っていてもすごく楽しいクルマでしたよ。

最終戦の舞台は鈴鹿ですが、この時期の鈴鹿はF1を見ていただいても分かる通り、コンディションが良く、タイムも速くなります。その分、全体のスピードが上がります。特にS字区間を含むセクター1では、リズムよく速いスピードをキープすることが重要にな

ってきます。S字は観客の皆さんにもオススメの観戦ポイントのひとつ。何よりもスーパーフォーミュラの魅力である『スピード』が感じられると思います。ドライバーごとに違うアクセルワークやライン取りなども見てもらえば面白いと思いますよ。S字の中でも、2つ目と3つ目の間で、スタンドの上の方から見るのがいいですね。各ドライバーの特徴やクルマのセットアップの仕上がり具合が結構分かります。ステアリングの修正が少ないクルマ&ドライバーは速いですし、決まっていないクルマは何となくクルマの挙動が敏感で危なっかしく見えます。アクセルを踏んでからのリヤの動きに注目すると分かりやすいですよ。また、立ち上がり方向を見ればステアリング操作も見えます。

そして今回は、もちろんタイトル争いが最大の見どころ。ランキング上位のドライバーは、いずれも1レース目でアドバンテージが欲しいところだと思います。でも、現状のポイントや各チームの戦闘力はかなり接戦なので、2レースとも優勝するか、あるいは上位で



フィニッシュしないとチャンピオンにはなれないでしょうね。鈴鹿はオーバーテイクが難しいので予選は非常に重要です。1周が長いので、同じタイミングでアタックに出ればトラフィックはあまり問題ではありませんが、赤旗などでアタックできないケースもあるので、そのあたりのリスクマネジメントは考慮した方がいいかもしれません。アタックは本当にギリギリ限界まで攻めて、1周を上手くまとめられないとポールポジションは獲れない。そういった意味では、鈴鹿では1周が長くて難しい。でも、その分チャレンジングで、ドライバーからすれば1番やりがいがあります。予選でフロントロウにつけることがチャンピオンになるためには必要ですし、予選と同じくらいスタートが明暗を分けるポイントになると思うので大注目です。

結果として誰が獲るのか。本当に混戦で予想できないのが正直な所です。流れと勢いで言えばビエール・ガスリー選手ですが、石浦宏明選手は鈴鹿でいつも強いレースをするので、この2人の争いになるんじゃない

COURSE DATA

全長: 5.807km
コースレコード: 1'35.907
中嶋一貴 (VANTELIN KOWA TOM'S SF14)
2017.4.22 (2017 SUPER FORMULA 第1戦)

過去3年の結果 (優勝者 | PP)

2016	Race 1	石浦宏明 (F.MUCERLIMO-INGING SF14)
	Race 2	石浦宏明 (F.MUCERLIMO-INGING SF14)
2015	Race 1	A.ロッテラー (PETRONAS TOM'S SF14)
	Race 2	山本尚貴 (TEAM 無限 SF14)
2014	Race 1	A.ロッテラー (PETRONAS TOM'S SF14)
	Race 2	中嶋一貴 (PETRONAS TOM'S SF14)

いでしょうか。ただ、昨年とは逆に追いかける立場で最終戦を迎える関口選手、他にも鈴鹿で強いアンドレ・ロッテラー選手や山本尚貴選手、中嶋一貴選手、国本雄資選手あたりにも、優勝のチャンスはあるでしょう。中でも、クルマのセッティングに悩んで、今シーズン苦しんでいた山本選手の復活に期待しています。いずれにしても2レースあるので素晴らしいレースとバトルが見られると思います。ハイレベルでクリーンな争いの中で、チャンピオンが決まる瞬間を僕も楽しみにしています。

Starting Grid

スターティンググリッド

自分でGrid表を完成させよう!

記入例: 上段 Race1 結果 / 下段 Race2 結果

2	No.	4	No.	6	No.	8	No.	10	No.	12	No.	14	No.	16	No.	18	No.		
1	No.	3	No.	5	No.	7	No.	9	No.	11	No.	13	No.	15	No.	17	No.	19	No.

チャンピオンに輝くのは誰だ？

最終戦で決まる熾烈なタイトル争い

最終戦の前に、自力チャンピオンの可能性は4人に絞られた。ここでは、4人がそれぞれチャンピオンを確定させるための条件をご紹介したい。まずは、スーパーフォーミュラのポイントシステムを確認しておこう。

- ・最終戦のポイントは、決勝の1位から8位までに各8/4/3/2.5/2/1.5/1/0.5
- ・予選のポールポジションは、Race1、Race2にそれぞれ1ポイント
- ・1大会2レース制の今大会は、両レースのポイントを合算する(今大会は最大18ポイント)
- ・同ポイントが並んだ場合は、最大獲得ポイントが大きい方が上位
- ・それが同じ場合は、最大獲得ポイントを獲得した回数が多い方が上位
- ・それも同じ場合は、より直近で最大獲得ポイントを獲得している方が上位

ドライバー	現在の得点	王者確定の条件
#2 石浦宏明	33.5	PP1回+1勝+残る1戦でガスリーに勝つ
#15 P.ガスリー	33	PP1回+1勝+残る1戦で石浦に0.5点以上勝つ(同点ならばガスリーの勝ち)
#7 F.ローゼンクヴィスト	28.5	2勝、もしくはPP2回+1勝+石浦に1点、ガスリーに1.5点以上負けない
#19 関口雄飛	25	PP2回+2勝、もしくはPP1回+2勝+石浦がPPを取らない

次にチャンピオンを確定させるための条件だが、こちらは少し複雑なため、上の表を見ていただきたい。これだけの条件を満たせば、他の選手の結果に左右されることなくチャンピオンを確定できるという条件であるため、ライバルがポイントを落とせばそのハードルは下がっていくが、

それでも各選手非常に厳しい戦いであることに変わりない。なお、ここに挙げた以外にも、上位勢が揃ってポイントを逃した場合は、現在8位の国本までチャンピオンを獲得する可能性が残っている。最後までどう転がるかわからないチャンピオンの行方を楽しみにしていただきたい。



観戦中の情報収集は

レースの状況を把握するなら……公式アプリ

順位、ラップタイム、セクタータイム、位置情報などがひと目でわかる無料アプリ。場内放送も聞けて非常に便利!

<http://superformula.racelive.jp/>



リザルトやコメントを見るなら……オフィシャルサイト

走行結果やインタビュー、その他リリースなど。随時最新情報を掲載!

<http://superformula.net>

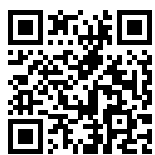


リアルタイムな情報収集には……Twitter

SUPER FORMULA
公式アカウント
@super_formula

TOYOTA
GAZOO Racing
@toyota_gr

Honda
モータースポーツLive
@hondajp_live



公式ハッシュタグは「#sformula」

記事やダイジェスト動画は……

● Facebook

スーパーフォーミュラオフィシャル facebook

<https://www.facebook.com/superformula.official>



YouTube公式チャンネル

<https://www.youtube.com/user/superformulavideo>



リア流 SUPER FORMULA 調理法

PROFILE
水村リア (みずむらあ) : スーパーフォーミュラ・オフィシャルステージのMC担当。外国人ドライバーからレースクイーンまで幅広い対応力でステージを盛り上げる!

「お客様、ラストオーダーのお時間です。シメは何になさいますか?」

今シーズンのシメに再びSFが帰って来たよ、鈴鹿サーキット! F1日本GPも開催されたばかりの、世界が認めるモータースポーツの聖地で、今年も熱々のSFチャンピオン争いに決着をつける時がやって来ました。

最終戦で8人がチャンピオンの可能性を持つ今シーズン。その中でも自力チャンピオンの可能性を残すのが4人。F1デビューをも果たしたマカロンスマイルのルーキー、ピエール・ガスリー選手を0.5pt差で抑えるのは、侍プライドを見せる2015年チャンピオン! 石浦宏明選手。そんな二人の背後に迫るのは、開幕前は誰もがノーマークだった(!?) 脅威の“職人”ルーキー、フェリックス・ローゼンクヴィスト選手。2年目の悲願なるか、関口雄飛選手! そして、今年大活躍のル

ーキー達と負けれないベテランドライバー達のプライド合戦も見逃さない!
「2レース制」で開催される最終戦のタイトなスケジュールは、ドライバー・チーム共に、体力もメンタルコントロールも、あらゆるハプニングに対応する瞬発力も2倍必要。いつもよりハードでスパイシーな献立。今週末のピリッピリの緊張感、想像するだけでドキドキしませんか?

SFは速さもメンタルも常に極限の中で争われる、そのギリギリ感がかっこいい! 今年の最終戦は、いつも以上に選手の「極限の姿」が見られるレベルマックスな一戦となり、そんな姿に惚れ惚れしてしまいそうな予感♡ 是非お近くでご堪能あれ〜♡

各選手、シメとなる最後のレースは激辛ラーメンか、はたまた甘いアイスクリームか? わたしの鈴鹿サーキットでのシメは、ドミニク・ドゥーゼのクロワッサンできーまり!



オンボード映像からレースを紐解く「DRIVER'S EYES 2017シーズン VOL.2」第3戦富士、第4戦もてぎを収録したVol.2発売!

発売日: 9月22日(金) / 価格: 2,700円(税込)
収録内容: 第3戦 富士、第4戦 もてぎ
コース解説: フェリックス・ローゼンクヴィスト(富士)、國本雄資(もてぎ)
主音声: 松田次生(解説) / ピエール北川(実況)
副音声: 走行音のみ



お求めは
場内売店が
公式サイトへ!



KRS
KTEL RACE SERVICE

がんばろう!
九州
We are all together

TV放映/映像配信

BSフジ 決勝戦生中継 『2017スーパーフォーミュラ第7戦鈴鹿』



番組では現地の臨場感をそのままお届けします。オフィシャルコメンテーター・ピエール北川と、アンバサダー本山哲の場内実況がサーキットの臨場感をリアルに伝え、ピットからはレース解説に定評のある松田次生と、今シーズンから初参戦の東(ひがし)美樹が、現場の緊張感をレポートします。
○放送時間: 10月22日(日) 午後2時00分〜3時55分

BSフジ 『スーパーフォーミュラ GO ON!』



番組では、注目のレース関係者や豪華ゲストを招き「人」をテーマにトークを展開、スーパーフォーミュラの魅力に迫ります。MCは小林可夢偉と中嶋大祐の現役ドライバー2人。その2人をピエール北川がサポートし、さらに乃木坂46の樋口日奈がナレーターとして華を添えます。加えて、レースダイジェストコーナーでは、ピットリポーター松田次生がトップドライバーならではの徹底解説をお届けし、東美樹が現地でアシストをします。
○放送時間: 第8回 12月23日(土) 午後11時00分〜11時55分

J SPORTS



全7戦の予選と決勝の模様をライブ中継。再放送やレースダイジェスト番組もO.Aします。

○放送時間: 10月21日(土) 午後1時40分〜予選生中継 J SPORTS 3
10月22日(日) 午前9時00分〜決勝 Race1生中継 J SPORTS 3
10月22日(日) 午後2時00分〜決勝 Race2生中継 J SPORTS 3

GYAO!



大会終了15日後よりスーパーフォーミュラの決勝レースを全戦オンデマンドにて無料配信。
<http://gyao.yahoo.co.jp/sports/>

TIME SCHEDULE タイムスケジュール

※スケジュール、内容、出演者等は予告なく変更、中止になる場合があります。

RACE レース
10月21日(土)
8:00- 8:20 Vitz①公式予選
8:30- 8:50 Vitz②公式予選
9:10-10:10 SUPER FORMULAフリー走行
10:50-11:10 86/BRZ クラブマン①公式予選
11:20-11:40 86/BRZ クラブマン②公式予選
12:00-12:50 ピットウォーク
13:15- Vitz コンソレーション [4周]
13:50-14:10 SUPER FORMULA公式予選(Q1)
14:20-14:27 SUPER FORMULA公式予選(Q2)
14:37-14:44 SUPER FORMULA公式予選(Q3)
15:00-15:20 86/BRZ プロ公式予選
15:50- 86/BRZ クラブマンB 決勝レース [8周]
16:35-17:05 キッズウォーク
10月22日(日)
8:00- Vitz 決勝レース [8周]
9:25- SUPER FORMULA 決勝 Race1 [19周]
10:40- 86/BRZ クラブマンA 決勝レース [8周]
11:35-12:25 ピットウォーク
12:55- 86/BRZ プロ 決勝レース [8周]
14:20- SUPER FORMULA 決勝 Race2 [36周]

EVENT イベント
10月21日(土)
8:15- 8:30 オープニングステージ MC:水村リア
8:30- 8:45 サーキットクイーンステージ MC:水村リア
8:45- 9:00 くま吉じゃんけん大会 MC:今井優香
11:30-11:50 スーパーフォーミュラドライバートークショー ゲスト:國本雄資選手、石浦宏明選手、中嶋大祐選手、A.Dリッター選手、山本尚貴選手 MC:水村リア
12:05-12:20 スーパーフォーミュラ監督トークショー ゲスト:手塚長孝監督、村岡潔監督 MC:水村リア
12:40-13:00 レジェンドトークショー ゲスト:本山哲、松田次生、井出有治 MC:水村リア
13:05-13:15 JAFステージ MC:水村リア
13:30-13:45 トヨタクイズ大会 MC:今井優香
15:00-15:25 レースクイーンステージ MC:水村リア
15:35-15:50 女子会トークショー 東美樹、浅見理美、水村リア
16:00-16:20 スーパーフォーミュラドライバートークショー ゲスト:小林可夢偉選手、中嶋大祐選手、P.ガスリー選手、関口雄飛選手 MC:ピエール北川
16:35-17:00 テクノロジーラボラトリー 両角岳彦、浅見理美、スペシャルゲスト
10月22日(日)
7:45- 8:00 オープニングステージ MC:水村リア
8:00- 8:15 サーキットクイーンステージ MC:水村リア
8:30- 8:45 Race1直前トークショー 水村リア
10:30-10:45 くま吉じゃんけん大会 MC:今井優香
10:55-11:05 JAFステージ MC:水村リア
11:10-11:30 スーパーフォーミュラトヨタ監督トークショー ゲスト:館信秀監督、星野一義監督、近藤真彦監督 MC:今井優香
12:00-12:20 Race2直前トークショー ゲスト:本山哲、東美樹 MC:水村リア
12:25-12:40 スーパーフォーミュラドライバートークショー ゲスト:山下健太選手、伊沢拓也選手 MC:水村リア
12:45-13:10 レースクイーンステージ MC:水村リア
13:15-13:30 トヨタクイズ大会 MC:今井優香
16:30-17:00 テクノロジーラボラトリー 両角岳彦、浅見理美、スペシャルゲスト